

THE Y'S MEN'S CLUB OF TOKYO-GREEN

東京グリーン

CHARTERED 1973

< 2022.03 >

BULLETIN

2021年7月～2022年6月



国際会長 キム・サンチュエ「Y's Men with the World」 「世界とともにワイズメン」(韓国)
アジア太平洋地域会長 大野 勉「100年を越えて変革しよう」(神戸ポート)
東日本区理事 大久保知宏「私たちは次の世代のために何ができるか?」(宇都宮)
関東東部部長 大澤和子「私の地域から世界に広げよう青少年を支えるワイズの輪・和・ワッ!」(所沢)
クラブ会長 樋口順英「力まず、愉しく、安全・安心」(東京グリーン)

会長 樋口 順英
副会長 青木 方枝
書記 布上征一郎
会計 青木 方枝
監事 柿沼 敬喜
担当主事 木村 卓司

3月 受難節(レント)

食事を終えてから杯も同じようにして言われた。「この杯は、あなた方のために流される私の血による新しい契約である」(ルカによる福音書 22章 20節)

<最後の晩餐の時、イエスが弟子たちに語られた言葉である。現在聖餐式で牧師が語る。酷い運命を受け入れ、私共のために「彼らは何も知らないのです。赦してください」と祈るイエス。救いの原点である>

2022年03月 例会



Zoomオンライン 例会

日時:2022年3月16日(水) 15:00～17:00

(Zoomホスト)司会 布上君

開会点鐘 樋口会長
ゲスト・ビジター紹介 樋口会長
聖句・お祈り 西澤君

<特別寄稿文(3p)に関連して・・・>

<重要課題の協議> (共有画面参考)

クラブ、部、区 全般関連 協議 樋口会長、他

第85回神田川船の会／開催に関する協議

(チラン共有画面) 目黒実行委員長、他委員

YMCA 情報／(神田川冊子原稿提案) 木村君

Happy Birthday (3月の該当者なし)

閉会点鐘 樋口会長

C S 事業 強調月間 (IP News 3月号より)

『3月の強調月間テーマ／地域奉仕活動 (CS) 』



私たちのクラブの非公式なモットーは、「Service in Action」(行動する奉仕)です。地域社会への還元と強化は、ワイズメンズクラブ国際協会(YMI)の主要な目的です。私たちは、定期的かつ良心的なボランティア活動と的を絞った募金活動を通じ

て、地域レベルだけでなく、世界中に前向きで持続可能な変化をもたらすことを約束します。

全人類のためにより良い世界を開発し、奨励し、提供するために協働するグローバルな YMI のネットワークの一部である加盟クラブは、積極的に地域社会の最前線で前向きで持続可能な変化のために努力しています。

各クラブは、奉仕するそれぞれの地域社会と同じように、ユニークで独自の市民活動や協調的な活動を展開し、運営しています。

クラブがどのように奉仕するかの方法は、数え切れないほどあります。特に、緊急かつ重要なニーズへの対応やその支援、不平等の解消、人間の基本的ニーズの充足と権利の尊重に重点が置かれています。

YMI は、独自のプログラムに加え、資金や時間を提供し、志を同じくする他の価値あるグループを支援することが多く、可能であれば地域の YMCA と連携して機能します。(転載)

【例会出席率】 在籍:15名 メーキャップ 0名

出席率 6/15 40%

出席:2月 例会(Zoom 例会) (メン6名、メネット1名) 計7名

【ニコニコ】 2月 (Zoom 例会のため献金はなし)

2022年 2月 第一例会報告



2022年2月16日(水)第一例会は今月もZOOMリモートにて開催、いつもの通り15:00~17:00で行った。
出席:青木・木村・佐野・西澤・布上S・樋口・各メン、布上Nメネットの7名。

このリモート例会では参加人数も少なく、外部の卓話者をお招きすることも難しく、どのような趣向で会を運営するか、ワイズの他のクラブの例会を拝見しても悩みは同様と思われるが、しかし、確実に会場を準備してハイブリッド例会を持ち、スピーカーを招いての講演をされているところも散見され、我がクラブも何とか方策を考えなければ、と、樋口会長とも話していた。

今月は新企画として樋口会長から提案があり、まず、テスト的に自分でサンプルを作成、発表することになった。「私の散歩道」と称して自分の住まいの近く、「我が街」を写真で紹介、自慢の名所があれば、特にアピールする、という内容。以下は樋口会長の住む三鷹市の紹介画像の一部。全体の構成はなかなかの物。よく出来ていました。



太宰も愛した三鷹の跨線橋(陸橋)1929年架設
三鷹の「撮り鉄」スポット
JR東、解体・撤去決定



これに続く次の制作・発表者は誰になるか……2か月後に筆者(布上)が挑戦してみようかと。
テーマ【さいたま市に浦和と名の付く駅は7つあるのです】
どのように作るかはお楽しみにして下さい。

- クラブ・部・区に於ける各課題について協議をした。
- 2/19 関東東部EMC拡大委員会
 - 2/26 第4回ワイズナイトフォーラム
 - 4/14 第31回東京YMCAチャリティーゴルフ
 - 5/07 DBC京都パレス50周年記念会(出・欠)
 - 5/14 第85回神田川船の会開催/小冊子改訂の件
- 4月以降の課題は3月役員会までにさらに協議の上、決めていくことになった。

(布上記)

2022年3月 第二例会(役員会)報告

2022年3月9日(水)第二例会(役員会)15:00~16:30
出席:青木・柿沼・木村・佐野・西澤・布上S・樋口・目黒各メン、布上Nメネット9名参加
議題 **協議決定事項**

- 1) クラブ会計担当者交代の件(青木メン→柿沼メン)
振込み口座:京葉銀行こてはし台支店
(普通) 3856346 柿沼敬喜 名義
- 2) 京都パレスクラブ50周年記念例会出席の件
場所;ホテルオークラ京都/会費;¥12,000/人
登録費<今回はコロナ特例で全額クラブ負担>
3名参加:樋口会長/青木副会長/柿沼監事
- 3) 神田川船の会関係 目黒実行委員長より資料を元に説明、協議
 - 5/14(土) 神田川船の会実施に向けて準備をする
 - 冊子改訂の内容(目黒・柿沼・早瀬・樋口・布上協議)
- 4) 2/19(土) 19:00 関東東部 EMC 拡大委員会報告
 - 4月2日EMCの集い開催予定
 - アピールチラシ作成
 - 委員会グリーン出席:樋口・柿沼・布上**



- (2/19 EMC 拡大委員会参加の関東東部の委員)
- 5) クラブ年会費の件:広義会員の件、
4月1日付:クラブでは3万円/年間の会費とする。
対象:古平メン(功労)・根本メン(広義)・新倉メン(広義)
 - 6) 3/5(土)次期会長役員研修会)ZOOM参加
樋口報告 <3月プリテン掲載>
 - 7) ユースアクション zoom での審査会お知らせ
3月6日(日)13:00~15:00 開場:12:50
YMCA/ワイズパートナーシップ検討委員会
リエゾン 山田公平さん
 - 8) 3/25(金)ハイキングの日さくら散歩のお誘い
(申し込み 2月28日まで)
日時 3月25日(金)10:00~
集合 西武池袋線 稲荷山公園駅北口改札
クラブメンバー不参加
 - 9) 4/14(木) チャリティーゴルフ
PGM 総成ゴルフクラブ:よろしくお願ひいたします。
会員部 小松氏と打ち合わせ、参加者、組み合わせ、
参加賞進呈、など**協力(柿沼・布上)**
 - 10) 4/16(土)関東東部第2回評議会開催
13:30~16:30(受付 13:00)
•場所;東京 YMCA 東陽町センター「YMCA ホール」
•Zoom 併用によるハイブリッド方式
**クラブ出席 : 樋口YMへ・柿沼YMへ・青木YMへ
木村YMで・布上・布上N、2名はZOOMで。**

(布上記)

2022-23年度

東日本区次期会長・部役員研修会 報告

1. 日時:2022年3月5日(土) 10:00-16:00
2. 出席者:80名以上 ZOOM参加
3. 内容;事前配布ワークブック等資料に基づき、次期事業主任方針説明や運営事務、グループ討議
4. 感想:よく練られた次期理事方針です。各事業主任とも連携がとれています。
各々の事業が抽象論ではなく、何のために何を行うかが論理的、具体的に語られ、クラブ運営を考える上で勉強になりました。
5. 要点、気付き事項抜粋
 - 1) 東日本区の現況(大久保理事)
ウクライナ支援:目標100万円/東日本区
 - 2) 日本YMCA中期計画2021~2023(光永主事)
 - ① SDGsをフレームワークとし、5つの活動目的ごとに各世代向け支援プログラムを策定している。
下記2領域でワイズからの支援を期待します
・学生・社会人向:健やかな生活を、CS事業
・全世代向:社会貢献(チャリタ、ピングジャツ等)
 - 3) 次期理事方針(佐藤重良さん・甲府21)
 - ① トロイカ体制、各事業とも前年度活動を引継ぎ、次年度につなぐ
 - ② YMCAへの奉仕を柱とし、地域に根差した特色のあるCS事業、YMCAのネットワークと連携した国際交流活動を世の中に情報発信し、認知度を上げる。
 - ③ 会員増強の目的は、大きな奉仕活動を行うこと。そのため今すぐ行動、まず、知人を例会に招待しよう。
 - ④ ユースはワイズに対し何を期待しているか分析する。
 - 4) CYサ事業方針(小山久恵さん・東京サンライズ)
 - ① コロナ禍で今まで順調だったCS事業が滞るクラブに対し委員会では取上げて支援するので部長・主査にエスカレートしてください。
 - 5) 会員増強事業方針(佐藤節子さん・厚木)
 - ① 特色のある例会をつくり、知人、友人をクラブ例会に招待することから始める
 - 6) 国際交流事業方針(利根川太郎さん・川越)
 - ① TOF,RBM,BF等献金の用途をわかりやすく伝える
 - ② Zoom活用し、IBC,DBCを活性化させる
 - 7) ユース事業方針(衣笠輝夫さん・埼玉)
 - ① ユース事業委員会構成の若返りをおこなう
 - ② 従来「ワイズが求めるユースリーダー」から、「ユースにとっての関心をワイズが支援」に視点を変える
 - ③ 「SDGsユースアクション」の支援:社会課題解決テーマ18チームのエントリーあり、プレゼンを聴講。
 - 8) グループ討議「法人化」リットの具体的な手続き等につき情報交換を行った。
(銀行口座開設、広報活動、助成金申請等)

(樋口 記)

【特別寄稿】 2022年に思う

直前会長 西澤 紘一

2022年は、ワイズ創設100年目に当たる。1920年米国で発足したYMCAの支援団体として2年後、1922年に生まれた。また、明治維新から第2次世界大戦終戦までの77年間(1868年から1945年)と戦後から現在までの77年(1945年~2022年)が同じ期間となる。つまり、今年がその分水嶺の年でもある。前者が大日本帝国憲法下の殖産興業、富国強兵の時代であったのに対して後者は日本国憲法の下での民主主義と平和を享受した時代であった。

昨年度のNHK大河ドラマ「晴天を衝け」では、幕末から明治維新に至る日本近代化の歩みを渋沢栄一の生涯を通じて描かれた。維新後、次第に民衆の幸福より軍が主導する強兵のみが国の目的となり、悲劇の第2次世界大戦に突っ込んでいった。晩年の渋沢が「俺たちの目指した日本は、これだったのか」と独白する場面が印象的であった。

およそ、歴史は勝者の視点で書かれるものである。明治維新の長老たちは自らの正当性を主張するために、江戸幕府の近代化努力をすべて消し去った。当時幕府でも開国開明派であった阿部正弘、堀田正睦などの優秀な幕府官僚が居り、彼らなりに体制内改革を進めていた。それに対して、不満のはげ口として尊王攘夷論に悪乗りし一種のテロ活動をしていたのは長州藩ではなかったのか? 政権を握った彼らは倒幕後の新しい日本ヴィジョンを示せないままに西欧を真似するばかりの政権運営をし始めた。唯一国家の柱としたのは西欧キリスト教を基盤とした社会システムの猿真似であった。キリストの代わりに天皇を祭り上げて皇国日本を統一のシンボルとして自称一流国を作り上げてきた。しかし、戦前の日本は多くが「張りぼて」で精一杯背伸びをした虚構の国でもあった。このシステムは、ブレーキの壊れた車同様、先の無謀な戦争も回避することさえできなかった。そして戦後その反省の上に立って、ゼロベースから新しい民主主義、平和日本国を作り上げてきたはずであった。が果たして戦後77年間の歩みは、焼け野原で誓った新しい国作りが進んできたのか。1945年の原点に戻って考えてみる機会でもある。今の日本を見て天国の渋沢栄一は何と言うだろう。我がワイズメンズクラブもこの分水嶺に立って、新しい世界観を作って行く覚悟が必要なのかもしれない。

青木会計の都合により、今期後半、3月よりクラブ会計の扱いを柿沼監事に移管いたします。クラブ年会費など。

振込み口座

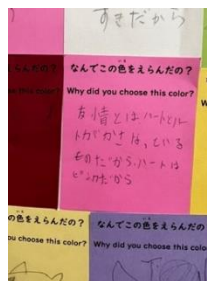
京葉銀行 こてはし台支店 (普通) 3856346
柿沼敬喜 名義



<2>
並びの
奇跡的な
瞬間!
TVで
get!

1. 1月29日、「第16回子育て講演会」をオンライン配信の形式で開催しました。NHK「すくすく子育て」の講師としても活躍されている汐見稔幸氏(東京大学名誉教授、白梅学園大学名誉学長、日本保育学会理事)に「ポストコロナ・これからの時代に向けて！子育てで大切にしたいこと」と題してお話をいただき、子育て中の保護者を中心に414名が参加しました。会員と職員有志による子育て講演会実行委員会が準備と運営を担い、28団体(法人)より協賛をいただきました。

2. 全国YMCAで取り組んでいるいじめ反対キャンペーン「YMCAピンクシャツデー」は、今年は2月23日に実施。その前後の期間に、各部では子どもたちといじめについて考える時間を持つたり、キャンペーンブースを設置したり、ピンクのものを身に着けてアピールする等、様々な取り組みが展開されました。東陽町センターでは2月21日～27日、「みんな、ちがっても楽しいね」というタイトルで、イベントを実施しました。神戸大学大学院国際協力研究科教授で元広島YMCA国際部主事のロニー・アレキサンダーさんが書いた「ポーポキ、友情って、なに色?」というピースブックを題材に、来館する子どもたちに「友情って何色かな?」とたずね、選んだ理由を色紙に書いてもらいました。「心が暖かくなるから暖かい色にした」「明るい平和の色にした」などのメッセージが寄せられ、一匹のポーポキという白い猫を思い思いの色紙でカラフルな猫に変身させました。また、仲間はずれにされたネコがみんなと仲良くなっていく絵本「ポーポキのおはなし」の映像を読み聞かせと共に上映し、みんな違っても楽しいのだということを伝えました。



3. ウクライナ緊急支援募金開始

ウクライナから2/27現在で36万人が周辺国のポーランド、ルーマニア、ハンガリー、スロバキア、モルドバ、リトアニアなどに難民として移動しています。ヨーロッパYMCA同盟がこうした難民の支援を行っています。募金は同盟を通してそうした支援に用いられます。募金は戦争で苦しむ人々のための人道支援であり、YMCAがウクライナ側、ロシア側のどちらかにつくということではなく、ウクライナ、ロシア、国籍を問わず苦しみの中にある人々を支援します。

募金はこちら→



ウクライナ YMCA の状況について(2022年2月26日)

(ウクライナ YMCA Victor 総主事から東京 YMCA に届いたメールより)

「キエフは現在非常に緊迫しており、予断を許さない状況です。市長はキエフのための戦いが始まったと発表しました。私はダウタウンの行政区に住んでおり、時折、遠くから銃声や打撃音が聞こえます。ロシア軍はキエフを包囲し、そこに入ろうとしています。キエフの別の地区では無人機が空軍の防衛手段によって撃墜され、その残骸から多層ビルが火事になりました...キエフはどんどん危険になっています...しかし慌てることはありません。多くの市民が車や他の交通手段でキエフを離れましたが、人々は冷静さを保とうと最善を尽くしています。幸いなことにテレビやインターネットはほぼ通常通り見ることができるので、キエフや国内の状況について情報を得ることができています。この戦いのために、軍隊の経験を積んだボランティアに1万丁以上の機関銃が与えられ、キエフ防衛のために軍隊を助けています。」

ウクライナ YMCA 同盟の事務所はこの2日間、ローカル YMCA の状況把握と、この紛争で苦しむ市民を支援するためのニーズについて情報を集めるために遠隔で活動しています。ウクライナ全土の戦争は今、活発な段階に入り、非常に急速に変化しています。≫

6. 今後の主な行事日程 ・「第31回チャリティーゴルフ大会」4月14日 会場:PGM総成ゴルフクラブ

(担当主事 木村 記)